

会 議 録

会議名 (付属機関等名)		令和5年度 第1回川西市介護保険運営協議会 生活支援体制整備部会(第16回第1層協議体兼地域ケア推進会議)	
事務局(担当課)		福祉部 介護保険課	
開催日時		令和5年7月21日(金)午後3時30分～午後5時10分	
開催場所		川西市役所2階 202会議室	
出席者	委員	吉岡 健一、木部 美代子、曾我 澄子、濱上 章、平岡 譲 井口 尚子、吉川 泰光、鷲野 奈美子、片岡 大雅、中上 直人 坂根 健一、細海 里恵	
	事務局	福祉部 田中副部長 介護保険課 松永課長、貞松担当課長、山本課長補佐、松下主任 新家主事	
傍聴の可否		可	傍聴者数 4人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第		<p>1. 開会</p> <p>2. 報告及び協議事項</p> <p>(1)令和4年度生活支援コーディネーターの活動報告について</p> <p>(2)「空きスペース調査結果」の報告と活用方法について</p> <p>(3)訪問型支えあいの人材確保に係る所属先で行える(行っている)取組みについて</p> <p>(4)通いの場の人材確保に係る課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通いの場の人材確保に係る課題と訪問型支えあいの人材確保に係る課題の共通点について ・通いの場の人材確保に係る課題に対する具体的な取組みについて <p>3. その他</p> <p>(1)福祉と医療の総合情報サイト<かわにしサポートナビ>について</p> <p>(2)次回開催について</p> <p>4. 閉会</p>	
会議結果		別紙審議経過のとおり	

審 議 経 過

(以下、生活支援コーディネーターを SC、福祉と医療の総合情報サイト<かわにしサポートナビ>をかわナビとする)

事務局	<p>それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和5年度第1回川西市介護保険運営協議会「生活支援体制整備部会」第16回第1層協議体兼地域ケア推進会議を開会いたします。</p> <p>私は、本日司会を務めます福祉部介護保険課課長補佐でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>部会員の皆様方には何かとご多忙のところ、ご参集を賜り誠にありがとうございます。</p> <p>まず、はじめに部会員の交代についてご報告いたします。</p> <p>この度、新たに曾我 澄子委員、濱上 章委員にご就任いただいております。</p> <p>では、一言ずつ、ごあいさつを頂戴いたします。</p>
部会員	<p>社協の事務局長、この4月に拝命いたしました。曾我と申します。先ほど、介護保険運営協議会から引き続き出席されている皆様におかれましては、また自己紹介という形にはなるのですが、社会福祉協議会としても、生活支援体制整備での地域づくりというのは非常に重要な取り組みと考えております。地域からのご意見を踏まえて進んでいけば良いと思っております。</p>
部会長	<p>よろしくお願いいたします。</p>
部会員	<p>社会福祉協議会の副会長を立場で参加させていただいております、どうぞよろしくお願いいたします。桜小地区福祉委員会の委員賞をさせていただいております。介護保険事業とも関連がありまして、特に生活支援体制事業等で高齢者の社会参加とか生きがいづくり等への取組みが必要だと思っています。地域での住民による支えあい活動も地区福祉委員会活動として進めています。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>尚、本日は公益社団法人川西市シルバー人材センター経営事業課主任にお越しいただいております。後ほどの協議の中でご説明いただく予定ですので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、ここから吉岡部会長に議事進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。</p>
部会長	<p>本日も皆様の活発な意見交換、ご協議を、ぜひともよろしくお願いいたします。 それでは、まず、委員の出席について、確認させていただきます。</p> <p>委員の出席については、委員14名の内、本日ご出席をいただいておりますのは、13名でございます。</p> <p>よって、川西市介護保険運営協議会規則第3条第4項の規定に基づき本日の部会は成立しております。</p> <p>傍聴の方は、いらっしゃいますか。</p>
事務局	<p>傍聴の方は、現在2名お越しいただいております。(途中傍聴あり、合計4名)</p>

部会長	では、議事に入ります前に、事務局から資料の確認をお願いいたします。
事務局	<p>それでは、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>事前に送付させていただきましたのは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1 介護保険サービス事業所、川西市社会福祉法人連絡協議会「ほっとかへんネット」に対する空きスペース調査結果 ・資料2—1 訪問型支えあいの人材確保に係る所属先で行える(行っている)取組みについて ・資料2—2 訪問型支えあいの人材確保に係る短、中・長期な課題について ・資料2—3 通いの場の人材確保に係る短、中・長期な課題について ・資料 公益社団法人川西市シルバー人材センターについて <p>の計5点をお送りしております。</p> <p>また、本日机上には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・委員名簿 ・資料2—2 訪問型支えあいの人材確保に係る短、中・長期な課題について ・資料2—3 通いの場の人材確保に係る短、中・長期な課題について <p>を置かせていただいております。資料2—2, 2—3につきましては、事前に送付させていただきました資料と差し替えさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>皆様、資料はお揃いでしょうか。</p>
部会長	<p>それでは、次第に沿って進めさせていただきます。まず次第の2、報告及び協議事項です。</p> <p>まず、「2—(1)令和4年度生活支援コーディネーターの活動報告について」です。第1層及び第2層 SC から、報告をお願いします。まず、第1層 SC をお願いします。</p>
第1層 SC	<p>それでは、令和4年度第1層SCの活動報告をさせていただきますが、その前に本日机上に令和4年度第1層SC報告と令和4年度スマートフォン講習会報告、令和4年度第2層SC活動報告移動販売のチラシを置かせていただいております。皆様、ございますでしょうか。</p> <p>報告させていただきます前に、令和4年度までの第1層・第2層SCの配置状況も載せさせていただきます。令和5年度には第2層SCが6名に増え、SC計7名で生活支援体制整備事業を活用し地域づくりに取り組んでいきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは報告させていただきます。報告は、第1層SCの主な業務項目に合わせて、示させていただきます。</p> <p>まず、(1)地域のニーズと資源情報の見える化・問題提起についてから報告します。かわナビは、地域の社会資源を SC が中心となり集めて、令和4年3月から稼働しました。掲載情報の新規掲載や一斉調査での更新や随時更新を行い、情報の鮮度を保つことにも努めてきました。また、市民・地域包括支援センター等多様なところに、かわナビの周知するだけでなく、地域活動と専門職をつなげることにも取り組みました。</p> <p>その他には、厚生労働省の「地域づくりの観点からの保険外サービス活用推進等に関する調査研究事業」の調査事業報告に取り上げられました。</p> <p>令和5年度は、掲載している情報をもとに各地域の検証・把握を行い、地域づくりに活用することやその情報を専門職とも共有すること、また、市民が見てわかりやすい掲載情報にするために情報の肉付けを行います。</p>

次の「(2)地縁組織等の多様な主体への協力依頼などの働きかけ」についてです。

第2層SCが中心となり開催した訪問型支えあい活動の啓発のための「シェアはび講演会」に企画段階から参加しました。今後もSCで協力し、訪問型支えあい活動の必要性だけでなく、やりがいや楽しさを啓発し、活動の立ち上げや継続のためのサポートを行います。

また、生活支援サポーター養成研修を修了し、生活支援サポーターに登録いただいた皆様にニュースレターを配信し、交流会を開催しました。引き続き、介護職への就労や地域活動へ興味を持っていただくよう働きかけていきます。

大和地区で大和ハウス株式会社取り組んでいる「リブネスタウンプロジェクト(郊外型住宅団地の再耕)」の担当者と情報共有も行っています。

今後も地域活動団体をはじめ、多様な団体へ地域づくりや活性化ため連携できるよう働きかけていきます。

「(3)関係者のネットワーク化」です。

地域包括支援センターとの地域づくりに向けた情報共有を深めるためや、SCの業務や役割を認識していただくために、地域包括支援センターの認知症地域支援推進員会議へ参加し連携を図りました。

また、兵庫県が県社会福祉協議会に委託し行っている「生活支援コーディネーターフォローアップセミナー」に登壇し、「実践報告 立場・属性を超えて第1層として何ができるか」を発表しました。

兵庫県内のSCの情報交換の場が月に1回あり、出席しています。その場がきっかけとなり、高砂市のSCが川西市の地域活動を視察、その後、その視察を受けた本市の地域の方が高砂市に講師として招かれ、第2層SCと訪問されました。

その他、総務省近畿総合通信局情報通信振興課へ皆様にお配りした「令和4年度スマートフォン講習会報告」を提供しました。

地域で自分らしく暮らせる地域づくりをすすめるために、介護保険サービスと地域で行われている多様な活動をつなぐこと、そして地域包括支援センター、専門職、SCがより連携できるよう取り組みます。また、訪問型支えあい活動を行っている団体間のネットワークや、民間事業者とつながりするため、まず商工会等と連携します。

「めざす地域の姿・方針の共有、意識の統一」ですが、月に1回、連絡会として、第1層・第2層SCが情報共有を行っています。方針を共有し、各地域担当が地域づくりの支えになるように努めています。今年度は、先ほどと重なりますが、地域包括支援センター、専門職とも情報の共有だけでなくめざす姿の意識を統一できるようにしていきます。

最後に「生活支援の担い手の養成やサービスの開発」ですが、訪問型支えあい活動の啓発の他にも第2層SCと協力して行う川西市生活支援サポーター交流会やスマートフォン講習会受講者へのかナビを通じた地域活動の紹介、シルバー人材センター等の紹介を行い地域活動への参加を啓発しています。令和5年度も元気な高齢者の地域参加、多世代の地域参加をこの部会の中で、またSCで検討し取り組みます。以上です。

部会長

ありがとうございました。続きまして第2層SC、報告をお願いします。

第2層SC

それでは、第2層SCから報告させていただきます。

上から順に「主な業務内容」「活動の方向性」「活動目標」「達成状況」になり、その後に達成状

況を示しています。

まず、ひとつ目、「ニーズに応じた地域福祉資源の開発について」です。明峰地区には、「たのみ隊」という住民主体の支えあい活動があり、令和4年度から自家用車を活用した移動支援がはじまりました。その活動をはじめるとあって、検討する当初から議論の場に参加するだけでなく、法令に触れないように実施するために、運輸局と細かい調整を行い、実施できるようにサポートを行いました。活動は、主に病院・買い物等を中心です。また、グリーンハイツ自治会では「お出かけ支援」という住民をスーパーまで送迎する外出支援を以前から行っておられます。この2つの移動支援の活動対して、社会福祉協議会の善意銀行という事業の中の助成金の制度を利用し、補助を行う事ができるようにしました。試験的というか、モデル事業的な取り組みですし、補助を続けるのにも限度がありますが、どの地域にも移動支援が必要であるという観点から、取り組んでいます。

桜小地区では、地区福祉委員会が「住民座談会」という小地域の集まりの場を繰り返し実施されており、地域住民の声を受け、気軽に立ち寄れる場が2ヶ所開催されています。また「支えあいネット」として訪問型支えあい活動も行っておられます。第2層SCは、「住民座談会」をはじめ、地域の方々が集まる様々な場に参加し、サポートを行っています。

ふたつ目に移ります。「身近なエリアで行う見守り・支えあいを推進」ですが、先ほども申し上げていましたように、活発に支えあい活動が行われている地域もあります。生活の中でのちょっとした困りごと、例えば、ゴミ出しや掃除等の助けあいが広まってきています。また、このような地域活動を行い見守る中で、介護保険サービスへつなぐこともあります。

また、ある地域では、訪問型支えあい活動に認知症の当事者の方が活動者として参加されておられますし、不登校のお子さんが、地域の高齢者と一緒に支えあい活動に参加されているケースもあります。

社会福祉協議会では、訪問型支えあい活動、例えば「たのみ隊」のような活動を小学校地区ごとに立ち上げていくことと、そして最近よく聞かれる言葉になった「子ども食堂」の活動、これは、子ども達のためだけでなく、高齢者の社会参加にもつながる活動ですので、こういったものの各地区での立ち上げをめざしています。例えば、多田地区でも子ども食堂が立ち上がりました。

また、見守り活動ですが、明峰地区では「安心サポート連絡会」を実施しています。民生委員と安心サポーターが日常の見守りの中で感じている状況について共有する場として、年に2回開催しています。この明峰地区の見守り活動は、自治会ごとに行っており、連絡会等での気づきで、専門職へ繋ぐ必要がある場合は、SC等が持ち帰り、担当部署へつなぐことも行っています。

次は「福祉ネットワークの構築」についてです。地区福祉委員会が主体となり、福祉ネットワーク会議という第2層の協議体の場を開催しています。

例えば、明峰地区の福祉ネットワーク会議のメンバーから公園を活用した交流の場の提案があり、実行委員会が立ち上がりました。福祉委員をはじめ、一般住民・地域包括支援センター・居宅介護支援や障がい者支援を行っているプラスワンケアサポート株式会社等も実行委員会メンバーです。誰もが集える場にするには、どうすれば良いか、議論を重ね、令和5年4月11日に「青空ふれあい広場」が開催されました。公園には、約400名の参加があり、来られた方の声としては、普段、デイサービスしか利用せず、地域活動には参加されていない高齢者が参加を

希望され、娘さんと来られたとお聞きしました。また、障がい者・グループホームに入所している高齢者・ひきこもりがちな方等、多くの方が参加されました。普段、障がいのある方と関わることが無く、初めて接する貴重な経験をさせていただいたという声もあったと民生委員の方にお聞きしました。「多くの方に地域活動へ参加していただくにはどうすれば良いか」から、公園で行うのは、「オープンな場所」で地域活動を見てもらうことも趣旨のひとつでした。その成果として、普段20名程度の参加で行われるサロンなのですが、ちょうど「青空ふれあい広場」の翌日が開催日で、その日の参加者は、35名に増えたそうです。今後も参加の楽しさやつながりが広がるようにしていきたいと考えています。

次に清和台地区のこども食堂の取組みです。これは、どこかの団体の活動というわけではなく、高齢の夫婦が子ども達のために何かできることはないかという想いに対して、地域組織がサポートし、立ち上げが実現しました。令和5年6月に清和台公民館でプレオープンし、本格的な開始に向け、試行を重ねています。

概ね活動の報告は以上となりますが、その他として第2層SCのコーディネート能力の向上を図るため、コミュニティワーカー養成の事例検討会を行っていますし、先ほど第1層SCからも報告がありましたが、毎月連絡会を開催し、SC間で情報共有を行っています。

もうひとつ、お配りしているカラーのチラシ、ダイエーの移動販売についてです。イオンフードスタイル川西店、能勢電鉄鼓が滝駅の近くにある店舗ですが、そこから移動販売を行いたいとお話をいただき、現在調整を行っています。チラシをご覧いただければと思いますが、この移動販売の目的や考え方としては、高齢者等には、お店に行けない、インターネットを使うネットスーパーの利用も難しいという方はおられます。その方達のために、移動販売を検討しませんかというお話でした。例えば、コープのような事前に注文した品物が届くのではなく、一定量の品物を地域の拠点に運んで、地域の皆さんが自分で品物を選んで購入します。福祉の視点というと、そこが集いの場にもなり、地域のつながりが生まれます。また今後は、なかなか外出しづらい方もそういった機会に外出できるサポートができないか等を協議する必要があります。

取扱商品は、チラシに掲載しているようなものを運び、品物の価格も、基本的にはスーパーと同額で、手数料として1点につき11円、上限は55円です。支払いは、店舗と同じレジを使用するため、クレジットカードも利用できると聞いております。

チラシの2枚目をご覧ください。軽トラックと軽ワゴン車の2台で各地域を回ります。トラックは、荷台部分が左右共に開くため、スペースとしては概ね3台分が必要となります。巡回のスケジュールですが、チラシにイメージ図を載せております。1カ所あたり、20分から30分の滞在で1日当たり約7カ所、月曜日から金曜日までで約35ヶ所を想定しています。

販売拠点については、移動販売は、生活支援体制整備を進めるための課題のひとつでもありますので、公園や自治会館のスペースを無償で利用できないか等、検討してもらえよう動いています。企業の視点でみると、手数料55円だけでは、なかなか利益を得るのは難しい状況で、販売拠点に使用料が発生するとなると、その拠点での販売は難しいと思います。

現在、7月末に販売拠点のスケジュールを概ね決定し、そこから車両の発注等をされ、11月スタートを予定しています。以上です。

部会長

はい。ありがとうございました。

第1層・第2層SCの令和4年度報告でした。続きまして、次第の2-(2)「空きスペース調査結果」の報告と活用方法についてです。第1層SCお願いします。

第1層SC

はい。お手元のA3の資料となります。川西市介護保険サービス協会に加入されています介護保険サービス事業所、川西市社会福祉法人連絡協議会「ほっとかへんネット」への加入法人の皆様にご回答いただきました結果を集約しております。前をご覧ください。かわナビに掲載した例です。検索条件をクリックしていただき、下の方にいくと、このように空きスペース情報にチェックを入れることができます。ここにチェックを入れて検索いただきますと、14件の空きスペース情報があることがわかります。このページの上にある「マップ」をクリックしますと、市内の分布がわかります。この旗のひとつをクリックしますと、どのスペースを何曜日の何時から借りることができるかと、問い合わせ先がわかります。

この情報を第2層SC・地域包括支援センターと共有し、活用していきます。また、SC・地域包括支援センターからのみ問い合わせがあることを提供いただいた事業所や法人の皆様にご説明させていただき、今後も空きスペース調査の協力をお願いしたいと思っております。

また、地域での活用事例等を部会で報告させていただきます。以上です。

部会長

ありがとうございました。よろしく申し上げます。

続きまして次第2-(3)訪問型支えあいの人材確保に係る所属先で行える(行っている)取組みについてですが、冒頭でもお話がありましたが、資料が差し替えになっております。

前回に通いの場の人材確保に係る取組みを短期、中・長期的に分けました。そして今回は、事前に、訪問型支えあいの人材確保に係る取組みのアイデアシートを提出していただきました。そのアイデアを短期、中・長期的に分け、また通いの場の人材確保に係る取組みと重複しているアイデアを整理しました。それが、この資料となります。

本日は、通いの場の人材確保に係る取組みのシートの中の具体的な取組み欄の空白を協議しながら埋めていきます。よろしいでしょうか。

その前にまず資料説明を第1層SCお願いします。

第1層SC

はい。資料2-1は、訪問型支えあい活動の人材確保に係る取組みのアイデア中で、皆様の所属団体で既に行っておられること、行おうとされていることをアイデアとして記載して下さったことをまとめております。

少しご紹介させていただきますと介護事業所の職員が、市からの受託契約のような形で訪問型支えあい活動を行うことができる、また、さわやか北摂さんは、資格が取得できる学校をされているので、そういうところを活用し地域活動者を増やすことができる、また、川西市生活支援サポーター養成研修を開催することができる等の提案をいただきました。

既に行われているほっとかへんネットや民生委員、地区福祉委員会、老人クラブの活動等、各所属団体の活動を記入いただきました。ありがとうございます。その中で、シルバー人材センターの活動についてご記入いただいた詳細をお聞きしたいと本日お越しいただきました。シルバー人材センター様よろしくお願いたします。

シルバー
人材センタ
ー

シルバー人材センターです。よろしくお願いいたします。

今日は、お時間をいただきましたので、シルバー人材センターについてお話をさせていただきたいと思います。シルバー人材センターの現在の会員数ですが、1,150名おられます。そのうち男性は、約65パーセントに当たる750名、女性は35パーセントで400名です。

年齢分布に関しては、70代の方が全体の61パーセントを占めています。全体の平均年齢75,2歳です。

お引き受けしている仕事内容は、お手元のチラシにも記載しておりますように、市内の一般家庭や企業、公共団体など多岐にわたる内容でお仕事を頂戴しております。

その中で、本日は生活支援に関連あると思われる家事援助サービスについてご説明させていただきます。もう一枚のチラシに家事援助サービスがありますが、現在、個人宅の清掃・洗濯・調理・買い物等を中心とし、54件の継続的なお仕事を頂戴しております。その他にも1回のみ依頼や月に2回だけ等、単発的なお仕事もお受けしています。例えば衣類の整理や庭の散水、ごみステーションの片づけ、電球の取替え等です。ただ、シルバー人材センターのお掃除のレベルについては、プロの方と同じというわけではありません。一般家庭で行う程度のレベルの範囲でお受けしています。

現在、家事援助の一環ですが、出産後の体調不良の方や、ご家族の支援を受けることが難しい方、ご両親が遠方におられる方等に対する産後ヘルパー業務を子ども未来部から委託を受けて行っています。産後の悩みを受ける相談窓口から依頼を受け、シルバー人材センター会員がご自宅に伺い、子どもひとりにつき、最大10回まで支援に伺う仕組みです。内容は、概ね家事援助で、清掃・調理等ですが、時々赤ちゃんのお世話も行います。世帯収入によって自己負担額は異なりますが、1回2時間で自己負担は最大1,500円です。シルバー人材センターが請求するのは、3,500円で差額は市にご負担いただいている事業となります。依頼しやすい仕組みになっているため、令和4年度は13件、延べ61回活動し、依頼されたお母さん方から、大変好評を得ています。

高齢者への家事援助について、地域包括支援センターから介護保険サービスでは対応できない援助が可能かの問い合わせが多くあり、当センターで対応可能な内容の場合は、料金体系や内容の詳細をその都度ご説明させていただいております。また、会員1,150名のうち、ヘルパー1級もしくは3級をお持ちの方が30名ほどおられますし、家事援助の仕事を希望される方も230名おられます。また、元気な高齢者が活躍できる場であり、当センターには、家事援助ができる方が、まだまだたくさんおられる状況です。地域では、生活支援に関わる人材の不足が課題と聞いておりますので、産後ヘルパーのように市との仕組みづくりが整えば、支援を必要とする高齢者を支える一端を担うことは可能ではないかと考えております。

今後ご提案をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

部会長

はい、ご説明ありがとうございました。

今回、次第2-(3)訪問型支えあい活動に係る人材確保についての中のアイディアとしてシルバー人材センターのできることをご記入いただきましたので、本日は、具体的な活動と人材確保のためのご提案をいただきました。訪問型支えあい活動の人材確保に係る課題にも当てはまる提案ですし、多様な連携で生まれる取り組みのひとつではないかと思っております。

それでは、次第2-(4)通いの場の人材確保に係る課題についてですが、先に、通いの場の

人材確保に係る課題と訪問型支えあい活動の人材確保に係る課題の共通点について、確認させていただいた上で協議に入りたいと思います。第1層SCお願いします。

第1層 SC

はい、資料2-2, 2-3を照らし合わせながら、ご覧ください。

まず資料2-2通いの場の人材確保に係る取組みのアイデアシートの項目ごとに数字を打たせていただいております。資料2-3訪問型支えあい活動の人材確保に係る取組みの「共通する課題」の欄にその数字を記載しております。数字が記載されている項目は、重複している課題ということになります。例えば、資料の2-3「若い担い手の育成」の項目の「共通する課題」の欄にⅢ-⑤と記入していますのは、資料2-2の中のⅢ-⑤の項目と重複しているということです。

通いの場と訪問型支えあい活動の両方に出てきているアイデアで重複している項目は、本日、協議を行い、次回以降に行う訪問型支えあいの人材確保に係る取組みの協議では、協議を行わない項目になるかと思えます。

訪問型支えあいの人材確保に係る取組みの協議では、番号の記載のない項目の協議を行うこととなります。

部会長

共通課題について、ご説明いただきました。

それでは、本日は、通いの場の人材確保に係る取組みのアイデアシートの協議をおこないます。①場所の確保②広報・啓発③継続・発展④他部署との連携等、この第1層協議体で取組んでいかなければならないことについて、皆さんから意見をいただきたいと思えます。では、ここから、進行を副部会長にお願いしましょう。

副部会長

通いの場を活性化するために、空き家の有効活用の検討や空きスペースの調査を行い、情報をおナビに掲載することになりました。今後は、SCと地域包括支援センターが活用するという流れが定着し、地域の自治会や民生委員や福祉委員のニーズをSCと地域包括支援センターが聞き取り、マッチングしていくことで、通いの場のより活性化につながると思えます。

その他に、何に取り組めばよいか、ご意見は、ございますか、発言がなければ、ご意見を順番にお聞きしてもよろしいでしょうか。

部会員

はい。久代地区では、意外と空き室もあり会館も多くあるため、どこでも広場とかを開催しています。料金も無料で、いつも脳トレを行い、お茶やお菓子を出して月に4回、場所を変えて、月曜日と水曜日に開催しています。その他にカフェを月に2回開催していますが、それも東久代と久代会館という風に別の場所で行っています。うちの地区は、利用できる場所が多くありますが、場所の無い地区にとっては、どこに空きスペースがあるのか、わかりやすいのは素晴らしいと思えます。

部会員

先ほどの介護保険運営協議会でもありましたように、ご高齢の男性の中には、閉じこもりがちのため、2週間誰とも会話していないような方が沢山おられる、そういった方々に地域でいろいろな活動されていることを周知できるような取組みができれば良いと思えます。地域活動に参加されていけば、より地域で長く元気に暮らせる方が、本当はもっと増えるのではないかと

思います。皆さんと歌を歌ったりするために、私の地区でも脳トレのために歌の本を作りましたし、楽器も買いました。歌を歌いながら、赤と青の色を付けたり、脳トレのような感じで開催しています。そういう場を作るのに協力してくれる人、参加する人がもっと増えればよいと思います。

副部長

ありがとうございました。久代地区は、様々な通いの場をされていて、新たな通いの場というより、広報啓発が必要ということですね。アイデアシートの中にもある広報や啓発のところが進むと本当に参加していただきたい方に情報が届きます。そのためにどのような広報をすればよいのか、第2層協議体や地域包括支援センターも巻き込み、取り組んでいく必要がありますが、第1層協議体として提案できるアイデアなどありますか。

部会員

私は桜が丘小地区です。4,000世帯程度で8,200人ぐらいの規模です。
市役所の近くでとても便利な地域です。しかし、自治会の加入率は市内地域で最も低く22パーセント台です。しかも自治会はあるのですが、ほとんど活動できていません。さくら小地区福祉委員会としては、孤立しがちな人が自治会の無い地域でもつながれる場所づくりを行っています。数年前から歌の会や折り紙の会、編み物の会、パソコン・料理のグループ等がありますが、1カ所で行くと、参加するのに遠い方も多くおられます。もっと身近に行ける場を作っていくと、現在5カ所、中央町、花屋敷1丁目・2丁目、山手町、霞ヶ丘の自治会館で開催しています。

なかなかひとりで参加できない方への声かけや見守り・寄り添い方法を検討していますし、参加しやすい場所での開催を考えていますが、現在、困っていることがあります。花屋敷山手町に花屋敷自治会館があるのですが、自治会の餅つき大会・バーベキュー大会等に利用され、福祉委員会もカフェを開催しています。ただ、築58年で耐震補強が必要なため、市としては、現状のままでは安全性を保証できないため、今後は、利用してもらえないと言われて

います。
先ほど、空きスペースや空き家の話が出ていましたが、適した場所があれば良いですが、無い場合はこれからどうすればよいのかと困っています。空き家があったとしても、やはり耐震性はどうか、補強工事等を所有者が行ってくれるとは限りません。小地域の中で会館等を利用して多様な居場所を開催することは、近くにあることで住民も集まりやすく、また新たなつながりが生まれ、人材確保にもつながると思います。小地域で使える会館等を今後どのように確保していけばよいか、耐震性の問題も含めて、困っている課題です。

副部長

ありがとうございました。
整理すると、先ほどの久代地区では開催場所より、周知・広報等、活動を知ってもらうことが必要で、桜小地区では、自治会の加入率などの問題、そして通いの場の開催場所に関する課題を出していただきました。

広報については、民生委員や福祉委員さんの声かけ等で、誘い合わせて参加できるようなことを行う等で、地域の方に周知が広がるのではないかと感じます。

また、かわナビを使って全市的に広報し、多方面に広く活動を行っていることを知ってもらうことで可能性が広がってくるのではないかと感じました。今までいただいたご意見等で、この

部会員	<p>所が気になるなど、何かご意見はございませんか。</p> <p>中央包括支援センターです。中央包括では、アステホールやキセラホール等大きな場所で研修を開催していますが、昨年より早く研修参加申し込みの予約が、埋まっているように思います。地域活動が、活発になってきていると感じています。例えば、キセラを利用している方にキセラが予約でいっぱいの場合、地域にも空きスペースがあります、かわナビでわかりますと周知するとか、アステでもシャンソンやウクレレ等、賑やかにいろいろ活動されています。そういう方々をボランティアなど地域活動に繋げるために地域活動と交流できる仕組みが既存のものにプラスアルファする形でできればと思いました。</p>
副部会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>かわナビの有効な活用や、お話を聞きながら、キセラ等にかわナビのチラシを置いてもらうのも周知のひとつかなと思いました。かわナビを見て、自分の地域にどれぐらいの人数が集まれる場所があり、「無料で利用できる」「ワンコインで使える」とわかることで、それならここでやれるのではないかと予約が取れずに困っている方に活用していただけたらと思います。</p> <p>もう1点、かわナビに誰もがみれる空きスペース情報を載せるのか、かわナビの啓発チラシにその情報を掲載するのか、という検討もあるかと思っています。空きスペース情報をかわナビで見ると、SCへ連絡し、SCがつなぐという流れで、活用していく、ただ、わかりやすい情報が記載されていて、予約や問い合わせが簡単な流れを作っておく必要があります。</p> <p>その他、少し困っていることや、提言等、この場で言っておきたいこと等ございませんか。</p>
部会員	<p>地域活動を行っている立場から申しますと、活動者をどう発掘していくか、といのは大きなテーマです。川小地区の福祉委員会は40年以上続いているのですが、役員がかなり高齢化しております。いつまで活動を続けていけるのかと危機感を感じています。若い世代にどう参加を促すのか、とても大きな課題です。どうしても活動のやり方が、高齢者の発想になってしまい、広がりがないとか、若い方から見て魅力がないとか…。社会福祉協議会の方にも良い方法の提案をお願いしていますが、解決策がなかなか見つからない大きな問題です。</p> <p>例えば、SNSを使い、地域活動の魅力や面白さを発信していくと、少しでも興味を持って参加してみようかとか、活動団体に少し関わってみようかなとか、という意識が広がってくるのではないかと思います。地域活動への理解が参加のきっかけになるのではないかと思います。</p> <p>SNSに詳しい職員を専用に配置してもらい、現場に入ってもらい、現場の生の声を聞きながら、SNSで配信してもらいたいです。市の職員でも社会福祉協議会でもよいので配置し、地域情報の発信ができる体制を作ってもらいたいです。</p>
副部会長	<p>確かにSNSの活用は、今後、必要になってくると思われます。既にSNSを利用して情報を発信している自治体や地域活動団体もあります。ただ、発信しているが見る人が増えなかったり、反応が少なく、アップロードする回数が滞っていくという話も聞きますので、発信方法や内容も検討が必要かと思っています。</p>
第1層 SC	<p>シルバー人材センターにご質問させていただきたいのですが、先ほどのご説明の中で、男性の方が女性より比率がかなり高いのは、地域の参加者とは逆の比率でして、会員募集の方法等</p>

<p>シルバー 人材センタ ー</p>	<p>で何かされていて、男性が754名も会員になられているのか、お聞きしたいと思います。 特別、男性向けに何かしているわけではございません。 ずっと以前から、おそらくシルバー人材センターがはじまってから、ずっと男性の比率が高い と思います。逆に最近ようやく女性が増え、喜んでいるところです。定年後、家にずっといると、 身体が鈍るだけなので何かしたいと思われているのではないかと、認識しております。</p>
<p>部会員</p>	<p>先にお配りしているチラシ見ていただいたらわかるかと思いますが、シルバー人材センター で現在請け負っている仕事で一番多いものが、植木の剪定・草刈り・除草等で力仕事や屋外作 業がメインでした。そういう面も理由かもしれません。ただ、ここ最近では、そのような請負業務 以外にもスーパーの品出しであるとか、サービス業への派遣も増えてきております。そのため、 飛躍的に女性の割合が増加しています。これは、川西市だけではなく、全国的な流れでして、 女性のパワーをシルバー人材センターで確保することの必要性が迫られています。</p>
<p>部会長</p>	<p>ありがとうございました。 シルバー人材センターはじめ、部会員の皆様所属する団体の個々の活動とコミットできれば と思っております。 今日、皆様からいただいたご意見をこのアイデアシートに落とし込み、次回、資料として皆さ ンにお渡しできればと考えております。 通いの場の人材確保についての項目としては、人材を確保するにも活動する場所がなけれ ば、人材を確保しても活躍していただけないのではないかとということ、また、人材を確保するに もまずは、啓発を行っていかないといけないというご意見もいただきました。 地域で活動している方も高齢となり、なかなか若い方の参加が進んでいないのが現状です。社会 参加することは良いことだと感じるように啓発することで、男性の参加啓発や若い世代などへの引 き継ぎをしていかなければいけないということです。 また、活動の継続・発展のためにも他団体との連携というところで、人材確保するには、まず連携 して協力していかないと、活動拠点がない、啓発もできない、ということになります。 カテゴリーに分けて短期的なこと、中・長期的なことに分けて考えなければ、具体的な取り組みが 見えづらいのではないかと思います。そういうものをイメージした上で、また皆さんの考えをお伺い できればと思います。 それでは、次第その他の3に移ります。次第3-(1)福祉と医療の総合情報サイトかわにしサポー トナビについて、第1層生活支援コーディネーターから報告をお願いします。</p>
<p>第1層 SC</p>	<p>ご説明させていただきます。今年度も一斉調査を行い、かわナビへの掲載情報を更新しています。 9月には、第1層、2層SCで集めてかわナビに掲載した情報を活用し、地域診断を行う予定です。診 断を行うことで各地域の資源や状況を把握していきたいと思っております。また、地域診断結果を 生活支援体制整備部会でお伝えできればと思います。今後かわナビの啓発や活用にご協力よろ しくお願いいたします。かわナビの報告は以上です。</p>
<p>部会長</p>	<p>ありがとうございました。引き続きかわにしサポートナビの利活用が広がるよう、皆様もご協力を よろしくお願いいたします。</p>

事務局	<p>次に、「3-(2)次回の開催について」、事務局から説明をお願いします。</p> <p>次回の部会予定ですが日程と詳細につきましては、部会長と協議の上、改めてお知らせいたします。</p>
部会長	<p>それでは、令和5年度第1回川西市介護保険運営協議会「生活支援体制整備部会」(第16回第1層協議体兼地域ケア推進会議)は、以上をもちまして閉会といたします。</p> <p>部会員の皆さまには貴重なご意見をいただきありがとうございました。</p>